

第38回定期委員会「委員会宣言」

委員会宣言 (案)

JR東労組青年部は8月22日、目黒さつきビル会議室において「第38回定期委員会」を開催した。

JR東労組結成35年、「えん罪・JR浦和電車区事件」から20年の節目を迎えるなか、委員の教訓的な発言により「全青年部員の実践で10年後、20年後の東労組の未来を切り拓いていく」ための方針を満場一致で確認した。

22春闘では、職場現実と青年部員の声を掴むため「青年部実態調査アンケート」を取り組み、9割を超える仲間の声を掴んできた。目的を一致させ、相手との対立を恐れず議論してきたことにより、労働者としてたたく意識を持った仲間をつくり出すことができたのは大きな成果である。アンケートの結果をもとに団体交渉に臨み、人材流出に対する危機感や、モチベーション低下などの職場現実を訴え、青年部から22春闘交渉をつくり出してきた。

しかし、会社は個人の問題として切り縮め、現場で働く私たちの声に耳を傾けようとせず、施策を強硬的に推し進めていく経営姿勢が明らかとなった。職場では、社友会への加入をしつこく迫り、利益誘導によってJR東労組からの脱退を逍遥するなど、労働組合軽視の経営姿勢が貫かれ、会社に否定感を抱きながらも「評価」を気にするあまり、脱退を選択する青年部員がいるのも実態である。この課題を乗り越えていくため、会社への幻想を断ち切り、労働者の立場を自覚する己を確立するとともに、経営姿勢に立ち向かう仲間を職場からつくり出していこう。

ロシア軍によるウクライナ侵攻から半年近くが経過するなか、1100万人を超える市民が避難を余儀なくされ、4万人を超える国民が死傷する事態となっている。日本では、メディアを利用して戦争への危機感を煽り、「憲法改正」に向けて大きく舵を切ろうとしている。そのようななか、7月10日に行われた参議院議員選挙では、改憲勢力が3分の2を超え、いつでも憲法改正発議を行える状態になった。

戦争によって犠牲になるのは弱い立場の労働者であり、ウクライナでは124名の鉄道従事者が命を落としている。過去の歴史を正しく学び、二度と同じ過ちを繰り返してはならないことを沖縄、ヒロシマの地に立ち学んできた。JR東労組はいかなるテロにも戦争にも反対である。何故労働組合が平和運動に取り組むのかを今一度捉え返し、「抵抗とヒューマンズム」を根底に、私たち青年部から平和な社会の実現に向けて行動していこう。

美世志会7名が不当逮捕された「えん罪・JR浦和電車区事件」から間もなく20年を迎える。事件以降入社した青年部員も多くなり、この事件がどのようなものなのか、どのような運動がなされてきたのか教訓を学び、伝え広める運動を青年部からつくり出さなければならない。国家弾圧にも屈せず、安全を真剣に考え、仲間と笑い合える明るい職場をつくり出してきた先輩方の思いを私たちは忘れてはならない。

私たちの最大の課題は、組織強化・拡大であり、1万人組織をめざすことである。組織が先細ってしまえば、組合員の雇用と利益を守ることはできない。青年部の存在意義は、フレッシュな感性で物事を見極め、組織に空気を入れることである。そして、職場の雰囲気をつくり出し、仲間との絆を深め、時には厳しい議論や実践を通じて現実を突破していく行動力である。

今年1年が組織強化・拡大の勝負の年となる。将来にわたり安心して働ける職場をつくり出すために、全青年部員の総力をあげて、何としても1万人組織を実現し、青年部の未来を私たちの手で切り拓いていこう！

以上宣言する。

2022年8月22日
東日本旅客鉄道労働組合青年部
第38回定期委員会

全青年部員の総力をあげて、1万人組織の実現をめざそう！！

